

2. 取組を進めるに当たり困難であった事例について

B. 円滑な学位授与の促進

⑤ポートフォリオ等を活用した到達度の把握と研究指導の充実

《人社系》

●千葉大学人文社会科学研究所

「実践的公共学実質化のための教育プログラム」の事例

(具体的に何を実施し、何が困難であったのか)

本大学院 GP では「実践的公共学」という目標を掲げ、コースワークの充実による実質化を目指した。コースワークの質の向上に関しては、その大部分においてその目標を達成したものの、各科目ごとの到達度把握という点に関しては、十分な施策を施すことができなかった。

(苦労したこと、困難であったことの具体的な要因は何だったのか、それにより実施内容がどのような影響を受けていたのか)

本研究科が人文・社会科学の多領域にまたがる研究科であるために、各科目においては各教員の理想とするディシプリンとコースワーク上の位置づけが適合していないことや、指導教員、副指導教員間の連携不足が生じた。特に留学生および社会人大学院生に対する対応において、情報共有の不足がみられた。

(どのように対応し、どのような結果が得られたのか、また、その結果が望ましいものではなかった場合、あらかじめどのように対応していれば適切であったのか、どうすればより良い結果を導くことができたのか)

このような反省をふまえ、平成 22 年度より指導実績の蓄積、情報の共有ならびに共同研究の基盤となる教育研究ポートフォリオシステムの開発に着手し、大学院改革の更なる実質化および可視化の促進を図っている。

2. 取組を進めるに当たり困難であった事例について

C. 教員の教育・研究指導能力の向上のための方策

②大学院生や教員相互のピアレビューでの授業評価による教育指導の改善

《人社系》

●千葉大学人文社会科学研究所

「実践的公共学実質化のための教育プログラム」の事例

(具体的に何を実施し、何が困難であったのか)

留学生・社会人支援プログラム「日本語論文指導」は、指導を申請した留学生に対して、適切な分野からの人材を本研究科修了生（特別研究員）から選抜し、チューターとして定期的に日本語の指導を行うものであったが、複数の指導教員、チューター、そして留学生の間での情報共有に困難がみられた。

(苦労したこと、困難であったことの具体的な要因は何だったのか、それにより実施内容がどのような影響を受けていたのか)

日本語論文指導プログラム活用場において、事前の打ち合わせや業務分担といった教育支援内容自体における情報共有があまり上手くいっていなかったため、指導教員からの内容面での指導やチューターからの日本語添削などに重複がみられた。

(どのように対応し、どのような結果が得られたのか、また、その結果が望ましいものではなかった場合、あらかじめどのように対応していれば適切であったのか、どうすればより良い結果を導くことができたのか)

ピアレビューの機会を担保するため、グループウェアのシステム構築を図った。国立情報学研究所が開発した CMS である NetCommons を利用し、初心者でも使いやすいインターフェイスを用意することになった。各教員が同一の研究論文に対してどのような指導を行ったのか、時点時点でアーカイブしておくことで、教員の FD および将来大学での教育業務を担う若手研究者（チューター）の教育トレーニングに資する効果を企図している。